

令和7年度

「運営に関する計画」 (最終反省)

大阪市立大和川中学校

令和8年2月

現状と課題

すべての生徒が安心して安全に学習できる教育環境の実現を図るために数年前の大きな学校崩壊からの学校再建として「秩序構築」をテーマに1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」に取り組み、生徒が主体となる様々な教育活動で、健康でたくましく「自律する力、他者を尊重し思いやる心」の育成を「チーム大和川中学校」として進めている。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で、安心して安全に生活できる学校へと大きく変わり、令和6年度末の校内調査において、「学校のきまりや規則を守っていますか」の項目に対し、肯定的な回答がほぼ100%であった。しかし、将来の夢や希望についての目標設定についての項目では、肯定的な回答が59.8%と低く、また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」では55.5%と、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までには、今一步及んでいない。授業規律の徹底を基盤とし、前期・後期の2期制や令和5年度より取り組んでいる「国語」「数学」「英語」の全学年での習熟度別授業やチームティーチングで「ひとり一人の学びを最大限引き出す、個別最適な学びの実現」を継続して推進する。生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を感じることでできる授業づくりに全教員が取り組みながら、同時にICT活用の高度化を図り、実践的な取り組みを段階的に発展させることで、より高い「学びの主体性」の実現を目指す。それにより、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、教師にとっても「教える喜び」につなげる。大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6:80.4%)
- 令和7年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答をする生徒の割合を95%以上にする。(R6:92.3%)
- 令和7年度末の本市調査における「学校から帰ってから。スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答をする生徒の割合を25%以下にする。(R6:45.4%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができてますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答をする生徒の割合を50%以上にする。(R6:32.5%)
- 令和7年度末の校内調査の「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答をする生徒の割合を、85%以上にする。(R6.81.5%)

- 令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。(R6:51.5%)
- 令和7年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」、「朝、すっきり起きることができる」に対して、肯定的に回答をする生徒の割合をそれぞれ90%以上(R6:84%)、60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R6:63%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の本市調査において、学校から帰ってから、スマートフォンの使用時間が3時間以上使用する生徒の割合を減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6:80.4%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を50%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を60%以上にする。(昨年：52.5%)
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6.81.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。
(R6:81.4%)

3、本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

「『命を考える』教育活動を柱とした平和維持学習」を教育目標とし、すべての生徒が安全で安心して通え、学習できる学校づくりを目指した。まずは1年生入学時の宿泊オリエンテーションで、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成を図った。児童から生徒への意識改革を行い、他者を尊重することを意識させることで、「ごめんね」「ありがとう」を素直に感じ、表現できるように導き、身近な平和を継続させる、本来のあるべき「安全安心な学校づくり」につながっている。生徒が主体となる様々な教育活動で、健康でたくましく「自律する力、他者を尊重し思いやる心」の育成を進め、今年度より、がんばる先生支援事業に選定され、取り組んでいる。

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合は87.8%。昨年より7.4ポイント向上した。今年度も生徒会が中心となり、いじめ防止に取り組んだことも生徒が主体的にいじめに対する意識向上になったと考えられる。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率は令和6年度の10.7%→11.85%に増加し、年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合は令和6年度の20.5%→16.1%と減少した。チャレンジルームやバーチャル登校システム(今年度トライアル)を活用し、今後も引き続き、「いつでも、どこでも」学べる環境づくりを推進していく。
- 年度末の本市調査において、学校から帰ってからスマートフォンの使用時間が3時間以上使用する生徒の割合は令和6年度の45.4%→49.3%と増加した。どの学年も大阪市目標の26.5%よりも大幅に高く、特に現2年生が令和6年度39.0%→54.3%に増加した。SNSの長時間利用は、学習時間や睡眠時間の減少、生活リズムの乱れを招く恐れや言葉の行き違いによる人間関係のトラブルや、誤った情報の拡散、個人情報への安易な発信など、SNS特有の危険性にも注意が必要である。SNSの利便性と危険性の両面を理解させるとともに、自分で使用時間や使い方を考え、適切に判断できる力を育てていくために家庭と連携しながら、ルールづくりや情報モラル指導を継続的に行っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

授業規律の徹底を基盤とし、考える力の素地となる基礎学力の定着、併せて学力向上を目指し、前期・後期の2期制継続や令和5年度より「国語」「数学」「英語」の全学年での習熟度別授業で「ひとり一人の学びを最大限引き出す、個別最適な学びの実現」を図り、生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を感じることでできる授業づくりに全教員が取り組んだ。

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、最も肯定的な回答をする生徒の割合は44.2%で目標の50%以上に届かなかった。肯定的な回答は85.8%であり、生徒がより学びあいを感じれる授業づくりに努める。
- 3年生の中学生チャレンジテストの国語と数学の平均点の対府比は、同一母集団においてそれぞれ▲2P減少。社会+0.8P、理科+0.5Pと微増であるが、英語においては+3Pと向上した。しかし、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)が大阪市平均60.3%に対し、42.9%と大きく下回った。来年度以降も習熟度別少人数授業の実施回数を増やし、基礎層の底上げを図るとともに、中間層の英語力向上を目指す。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合は54.8%だった。
- 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、90%と目標を大きく上回った。また、「授業に一生懸命に取り組んでいる」96%と学びに向かう意欲が高かった。「授業が楽しい」85%、「頑張ったことを認めてくれる」90%と、生徒の自己肯定感を引き上げる教員集団でありたい。

【学びを支える教育環境の充実】

「個別最適な学びの実現」に向けて、ICTを効果的・効率的に活用し、生徒一人ひとりの学びを深めたり、広げたりできるように。各教科では、家庭での学習を進めるためデジタルドリル「navima」やスタディサプリを活用し、生徒一人ひとりの学びを最大限に引き出せるよう進めていく。

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が達したのが10月と12月だけであった。「安全安心な学校づくり」や「個別最適な学びの実現」に向けて、ICTを効果的・効率的に活用し、生徒一人ひとりの心の見取りや学びを深めたり、広げたりできるように、また、各教科では家庭での学習を進めるためデジタルドリル「navima」やスタディサプリを活用し、生徒一人ひとりの学びを最大限に引き出せるよう進めていく。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合は、60.71%であった。
- 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は86.3%と目標値を達成した。

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合を85%以上にする。（R6：80.4%）</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の本市調査において、学校から帰ってから、スマートフォンの使用時間が3時間以上使用する生徒の割合を減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合を85%以上にする。（R6：80.4%）</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、一人ひとりの生徒情報を共有し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p>指標：生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートを毎月実施し、検証する。年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまな学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p>指標：校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目の肯定的な回答を前年度より5ポイント向上させる。（R6：77.3%）</p> <p>主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。SSWを中心としたケース会議を年3回以上行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学級活動や各教科横断での継続した防災学習に取り組む。</p> <p>指標：火災、地震、津波を想定した避難訓練を年2回以上行い、教職員を対象とした救急救命講習（AEDを含む）を年1回実施する。</p>	B

<p>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】 全ての教育活動を通して、「人の立場にたって考え行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	B
<p>指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」の項目の肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。(R6：92.3)</p>	
<p>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 職業講話（1年）、職場体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。</p>	B
<p>指標：社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）を実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を65%以上にする。(R6：59.8%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【施策1】 いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うことができた。いじめアンケートはICTを活用し行っている。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。</p> <p>取組内容②【施策1】 校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、77.9%であった。 宿泊オリエンテーションを予定通り実施することができた。宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を行っている。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的に行うことで、きめ細かい生徒指導に努めた。7月にはスクリーニング会議Ⅱを実施し、SSW・SCとの連携を図ることができた。</p> <p>取組内容③【施策1】 7月に校内での防災訓練（地震・火災想定）を実施した。</p> <p>取組内容④【施策2】 校内調査における「人の役に立つ人間になりたい。」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、96.5%であった。 学校生活を通し、他者を意識し、あいさつ活動を大切に教育活動を行うことに努めた。道徳授業では読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。</p> <p>取組内容⑤【施策2】 校内調査における「将来の夢や目標を持っている。」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、72.7%であった。 1年は12月に職業講話を実施予定である。2年は8月にはSPトランプを実施していただいた。また、11月下旬に職業体験を実施予定である。3年は7月に高校出前授業体験を実施し、9月には面接出前授業を実施していただいた。また、3年を中心に、進路の手引きの作成、進路説明会や進路学習、説明会の案内など進路選択への情報提供をきめ細かく行っている。</p>	

次年度への改善点

取組内容①【施策1】

生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。いじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。

取組内容②【施策1】

不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的実施していく必要がある。

取組内容③【施策1】

学校と地域の連携、地域と家庭が協力することで、総合防災訓練の内容をより深めることができる。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動につなげていく必要がある。

取組内容④【施策2】

校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が96.5%であった。目標達成できているが、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。

取組内容⑤【施策2】

上半期については各学年で計画通り実施できた。今後の状況によっては急な予定変更も考えられるが、できる限り社会体験や進路決定に向けての活動を行い、子どもたちが自分の将来を見据えるきっかけ作りができるよう柔軟に対応していきたい。

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合を50%以上にする。(R6：32.5%)</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。(R6：52.5%)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。(R6：51.5%)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6：81.5%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科で単元テスト・小テストを実施し、デジタルドリル・スタディサプリ等の活用や学習の振り返りを早く短い期間で行い、学習内容の定着につなげる。</p> <p>指標：放課後や長期休業中などを活用し、一人ひとりの理解度にあつた学習支援を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「数学」「英語」において、習熟度別授業やチームティーチングの充実を図る。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：年度末の校内調査における「授業はよくわかる」に対して、肯定的な回答をそれぞれ85%以上にする。(R6：83.0%、73.0%)</p>	B
<p>取組内容③【施策5 健やかな体の育成】</p> <p>体力の保持増進のために基本的な生活習慣を身につけさせる。また、毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。</p> <p>指標：全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策4】</p> <p>単元テストを繰り返し、中期ではそれまでの単元テストを振り返るといように、短期の学習成果の積み重ねができるよう取り組み、問題解決に努めている。補充学習などの取り組みも、一部ではある</p>	

が3年生を中心に、生徒が主体的に参加している。

取組内容②【施策4】

校内調査における「授業はよくわかる」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、数学が78.7%、英語が88.3%であった。

「数学」、「英語」において、週2時間習熟度別授業およびチームティーチングを実施している。下位層の引き上げに向け、習熟に合わせた教材研究を進める等の取り組みを行っていく。

取組内容③【施策5】

引き続き、授業開始時の準備運動を行う。

次年度への改善点

取組内容①【施策4】

前期の評価を受けて、生徒ひとりひとりの課題が生徒自身により一層見えたことを生かし、引き続き短期の課題解決に取り組む。

取組内容②【施策4】

教材研究を進め、習熟度別授業により適した内容、方法に工夫する。学年によって担当するレベルが違ったり、教員側の授業の振り返りを、次の授業に生かすにくい点が課題であるが、解決が困難である。

取組内容③【施策5】

引き続き、授業開始時の準備運動を行う。

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。(R6：基準1 30% 基準2 63%)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6：81.4%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の育成】 ICTを活用した授業づくり	B
指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト(1,2年生)における正答率を昨年度の大阪市平均より2ポイント向上させる。	
取組内容② 【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。	C
指標：第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。(R6：基準2 63%)	
取組内容③ 【施策8 生涯学習の支援】 朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。(図書館、図書紹介、読書感想)	B
指標：本市調査における、「学校図書館貸出冊数(生徒1人当たりの年間貸出冊数)を2冊以上にする。(R6：1.3冊)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 【施策6】 GIGA 端末を活用し、新学習指導要領に準拠した授業づくりを学校全体として進めている。目標としているチャレンジテストについては現段階では結果が出ていない。	
取組内容② 【施策7】 12月末時点における「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員は全体の60.71%であった。目標の数値を達成することができな	

った。

取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】

1 2 月末までの学校図書館貸出冊数（生徒 1 人当たりの年間貸出冊数）は、3.2 冊であった。
7 月末、1 2 月末において、貸出冊数の上位の表彰を行った。

次年度への改善点

取組内容①【施策 6】

学校全体として GIGA 端末の活用・教育 DX の実践を共通認識し、実践する。校内研修を通じて意識の向上を図り、授業力の向上をめざし、スタディサプリ等を活用し、個別最適な学びの実現をめざす。

取組内容②【施策 7】

「仕事と生活の両立支援プラン」等に沿い、教職員に健康に留意した働き方を今後も支援していく。ゆとりの日の促進や長期休暇での有休取得促進を行う。また日々の健康障害防止機能の確認を勧め、健康診断の結果を産業医との連携を行い教職員の健康管理を図る。

取組内容③【施策 8】

休み時間の図書室の利用など図書コーディネーターとも連携しながら、読書への興味・関心を引き出していく。来年度もひきつづき 7 月末、1 2 月末に貸出冊数の上位の表彰を行う。

令和7（2025）年度

運営に関する計画

- (1) 教務部
- (2) 各教科
 - ①国語科
 - ②社会科
 - ③数学科
 - ④理科
 - ⑤音楽科
 - ⑥美術科
 - ⑦保健体育科
 - ⑧技術・家庭科
 - ⑨英語科
- (3) 生活指導部
- (4) 健康整備部
- (5) 道徳委員会
- (6) 進路委員会
- (7) 特別支援教育
- (8) ICT 委員会

大阪市立大和川中学校

大阪市立大和川中学校

(1) 教務部

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【教務】 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。 指標： ・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業 ・上記作業についての知識の伝達	B	B
②【校務 ICT】 学習者用コンテンツの理解を深め、職員全体において共有・活用を図る。 指標： ・学習者用コンテンツの活用研究 ・研修の実施（年間：3回）	B	
③【カリキュラム調整】 教育課程と行事予定について調査と調整をおこない、時間割を改善する。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。 指標： ・習熟度別授業・チームティーチング・学校行事を見通した時間割の立案と改善 ・授業時数確保のための時間割調整 ・次年度評価基準の作成	B	
現状と分析		
①滞りの無いよう作業を進めている。 ②学習者用コンテンツについて研修を3回実施した。 ③必要に応じて時間割、特別時間割を発行し、教育課程の調整をおこなっている。		
次年度への改善点		
① 中間反省の内容をもとに、年度末・次年度に向けて行事予定の検討を行う。書類管理等については知識の伝達の面でも複数人による作業を基本とし、次年度へ繰り越すことの無いよう進める。 ② 引き続き新しいコンテンツの活用について情報共有を進め、必要であれば研修を実施する。 ③ 特別時間割を通して見えてきた行事予定の反省を次年度の行事予定に反映し改善する。評価基準については年度内に反省と仮の評価基準作成を進める。		

(2) 教科の重点①〔国語〕

目 標：	授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。
------	--------------------------------

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	B
② 【言語能力の育成】 音読やスピーチ、作文の時間を年間15時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	B
③ 【個に応じた学習指導】 提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B
④ 【自主学習習慣の定着】 テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B
⑤ 【個別最適化された授業の実施】 生徒の現状を把握し、個別に最適な授業を展開する。	B
現状と分析	
<p>① 各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、小学校の漢字の復習も兼ねて取り組んでいる。特に文法や語句などの知識問題に積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。</p> <p>② 定期テスト、単元テスト、また課題としてや、週末課題として作文指導を行っている。起承転結に成り立っての文章構成や、課題に適した文章作成など、生徒たちは前向きに取り組んでいる。3学年共に300字作文は書ききることができるよう指導を継続して行っている。</p> <p>③ 漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率は、上がっている。しかし、なかなか完璧に仕上げるのが難しい生徒もいるため、プリント作りの工夫をこらしながら、声掛けを継続的に行う。</p> <p>④ 各学年自主的に取り組める課題を配布している。</p> <p>⑤ 引き続き、わかりやすいと思われる授業のため教材研究を継続していく。①各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、小学校の漢字の復習も兼ねて取り組んでいる。特に文法や語句などの知識問題に積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。</p>	
次年度への改善点	
<p>・日々の学習で身についた知識を、スピーチや発表等において、自分の言葉で表現ができるよう、今後も積極的に取り組んでいく。</p>	

(2) 教科の重点②〔社会〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B	B
② 【発信力の育成】 班活動などの協働学習を通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	B	
③ 【習熟度に応じた学習指導】 定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、いずれの学年も昨年度より上昇させ対市比「1」をめざす。 (R6：現2年：0.89 現3年：0.86)	B	
④ 【主体的に学習に取り組む態度の育成】 デジタルドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、自主提出を基本とし、主体的に学習に取り組む習慣づくりを行う。 (自主提出であるが提出率80%以上になるようマネジメントを行う。)	B	
⑤ 【情報活用能力の育成】 協働学習ツールや動画教材を活用し、プレゼン作成や調べ学習を通じて情報活用能力の育成を図る。(パッケージ提供も並行して行い、インクルーシブ学習への取り組みも進める)	B	

現状と分析

- ① 授業準備・規律を徹底し、学習環境を整えることができている。
- ② 自分の意見を共有する時間を確保し、学びを深める取り組みができている。
- ③ チャレンジテストでの数値上昇に向けて、学習内容の復習や定着を図る時間を確保する。
- ④ 提出率が80%以上にならないものも見られたため、主体的に取り組めるように声掛けを行う。
- ⑥ コラボノートやGoogle スライドを活用し、ICT 機器を活用した発表などを行うことができた。

次年度への改善点

下半期は、③のチャレンジテストでの数値上昇に向けた知識の定着の時間の確保、④の自主課題の提出率が80%以上になるための声掛け、⑤の情報活用能力の育成に向けて、さらに深い学びを得られる取り組みの実施を重点的に、その他の取り組みに関しても引き続き行う。

(2) 教科の重点③ [数学]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げ、個に応じた学習支援を行う。 週当たりの授業時数の50%以上でチームティーチングを行い、単元のまとめなどでクラス習熟を行う。	B	B
② 【言語力の育成】 ICT 機器などを活用しつつ、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。月に1回以上、グループワークを取り入れる。	B	
③ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 毎時間課題を設定し、個に応じた課題も設定する。	B	
現状と分析		
① 全学年でクラス習熟を行っている。テスト前や単元途中での演習で習熟度別授業を展開し、個に応じた学習支援を行っている。 ② 全学年で ICT 機器を使用しており、独自のパワーポイントやデジタル教科書を用いて知識の定着を目指している。学びあいの場としてグループワークも取り入れている。 ④ ドリルプリントを活用し、授業内容の復習や定着をさせている。		
次年度への改善点		
・習熟度別授業では生徒の反応も良く、学習に対する意欲が湧いているように見える。また授業内でも質問する機会が増え、より学びやすい環境になっている。後期も引き続き習熟度別授業を展開し、通常授業内でもグループワークを取り入れていきたい。		

(2) 教科の重点④ [理科]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況
① 【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項を明確にさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小单元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	B
② 【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B
③ 【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを单元毎に実施する。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や演習プリントを活用する等して单元ごとに課題として提示し、確認する。	B

B

指標：①～③の活動を通し、授業アンケートにおける「理科が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。

現状と分析

- ① a. 毎時間の授業の導入・終わりに既習事項の確認、本時の目標を提示している。
b. 各学年、各单元で小テスト、单元テストを実施している。
- ② 理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究等で様々な单元で発表の場を設けることで、一人一人が発表する機会を与えることができた。
- ③ a. テスト結果を分析した上で、長期休暇を利用して低学力の生徒や希望する生徒を対象に補習を行った。
b. 演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。
- ④ 家庭学習習慣定着のために週末課題や单元ごとの課題を与え、提出させている。

次年度への改善点

- ・理科が楽しいと肯定的に答える生徒の割合が1年84%、2年90%、3年67%であった。後期以降も「なぜ」を考え追及していく姿勢が身に付くよう発問や授業形態について研究し、理科好きの生徒をさらに増やしていく。
- ・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方をもう一度見直し、子どもたちの興味・関心を引き出す授業作りを行っていく。さらに、効果的に記憶に定着できる仕掛けも考えていく。
- ・百問繚乱や外部テストを用いた分析を基に、弱点部分の補強を行い、基礎的な内容の反復学習を継続していく。

(2) 教科の重点⑤ [音楽]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況	
①【基礎学力の定着】 授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を定着させる。	B	B
②【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B	
③【個に応じた学習指導】 毎時間、歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスをを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B	
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を定着させる。	B	
⑤【規律、習慣付け】 授業持ち物（教科書、アルトリコーダー、ファイル、筆記用具）を徹底して準備させ、忘れ物ゼロを目標にする。	B	

現状と分析

① 基本的な音楽知識は3学年とも定着しつつあるが、どのように表現したいのかという表現力が課題である。合唱コンクールでは楽譜に書かれていること以外をどのように表現するかを考えるいい機会となった。
② 1年生は特に4月に比べ、知覚・感受したことをことばで表現することが少しずつではあるが上達してきている。
③ 創作活動・リコーダーでは机間指導を重点的に行った。合唱はパートリーダーに役割を与え、自主的に活動できるようにした。
④ 長期休業課題では、自分の好きな音楽をジャンル問わず紹介させた。多岐にわたる音楽の良さを生徒の言葉で表現し、それを共有することで「なぜ」この音楽が好きなのかを改めて考える機会を作った。
⑤ 音楽を形作っている要素を参考に自分の考えを提出させている。

次年度への改善点

<ul style="list-style-type: none"> ・表現することの楽しさを知り、多種多様な音楽を理解させていく。 ・毎時間の振り返りを具体的に批評できるようにする。
--

(2) 教科の重点⑥ [美術]

<p>美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。</p>
--

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 年間で作品を3点制作させる。3年間を通して計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B	B
② 【言語力の育成】 作品制作前の鑑賞活動や、制作後のレポート作成及び発表を行い、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B	
③ 【個に応じた学習指導】 生徒に対する助言や技術的指導を丁寧に行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾いあげる。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】 生徒一人ひとりの作品制作を進める中で、制作における個別の支援を充実させる。(放課後の補習時間)	B	
現状と分析		
<p>① おおよそ計画通りに制作を進められている。</p> <p>② 作品制作前後に鑑賞活動及びレポート制作を行えているが、「面白かった」「すごいと思った」などの抽象的な感想が多く、美術科の内容や目標を理解し、振り返りできているかは測れていない。</p> <p>③ 机間巡視を行い、個々の作品に応じた細かい指導を行えている。</p> <p>④ 前期前半、2,3年生の制作活動において、夏休み前に補習時間を設けた。しかし、計画的に制作を進める力の観点や作品評価の公平性から考え、補習は積極的に行わないようにしたいと考えている。</p>		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> 言語力の育成においては、美術科の内容や目標、評価のポイントを引き続き授業内に板書で示し、振り返りの視点を分かりやすく生徒に伝えていく。また、レポートの様式も観点別に分け、生徒がどの能力を伸ばすことができたのか、分かりやすく自己評価できるようにする。 補習時間においては、配慮を要する場合以外は原則、授業中に完成させるものとし、集中して計画的に作業する態度を身につけさせたい。 		

(2) 教科の重点⑦〔保健体育〕

目 標：	授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。
------	--------------------------------

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 集団行動を徹底して行わせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に俊敏性と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B
② 【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。集団や自分に適した課題解決のために、ワークシートを用いて解決方法を考えさせ、毎時間振り返り、生徒たちの前で発表させる時間を1時間に1回以上つくる。	B
③ 【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。 体力の保持増進のために基本的な生活習慣を身につけさせる。	B
⑤ 【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「反復横跳び」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	B

現状と分析

<p>【基礎学力の定着】 各学年、男女ともに多くの種目、競技に取り組むことができている。1年生は、集団考動を通して、他者意識を養うことができた。また、4月の頃は難しかった補強運動を継続して行うことで、基礎体力を向上させ、ランニングや補強運動も余裕をもって取り組むことができている。</p> <p>【言語力の育成】 前期では、多くの種目に取り組み、各学年、生徒同士の声かけや助け合う場面、授業の振り返りを積極的に行った。特に、2、3年生では、クラス内男女関係なく助け合う声かけをしており、内容を理解している生徒が困っている生徒にアドバイスをしてあげる場面が多くあった。一方で、1年生はこれからではあるが、人任せになっている部分が多く見受けられたので後期頑張っていきたい。</p> <p>自分の感じたことを言語化し、他者に伝える機会を設けることで、言語化能力の向上を図れた。</p> <p>【個に応じた学習指導】 授業進度のスピードは各学年の能力に応じて変化させ、授業づくりを考えて行っている。支援を必要とする生徒に対しては、特別支援学級の先生方と連携を取り、できる限り生徒同士でのサポートを心掛けた。</p> <p>【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】</p>

子どもたちは学年が上がるにつれ、先のことを考えて行動する力を身につけており、常に状況判断・把握して、生徒が自身が自ら準備、片付けを行う姿が多くみられた。1年生もその姿に心打たれ、率先して行動する生徒の人数も増えてきている。

【体力向上の推進】

体カテストの結果は最終反省時

次年度への改善点

- ① 授業に対する心構えを再確認させ、何事にも全力で取り組むよう、引き続き指導していく。
- ② 自分の考えや思いを授業の振り返りの時間で取り、言語化能力の向上を図る。
- ③ 支援を要する生徒から目を離さずに、特別支援学級の先生方と協力して、個に応じた指導を行う。
- ④ 生徒主体で授業展開し、体育委員や班長が中心となるような活動を増やしていく。

(2) 教科の重点⑧〔技術・家庭〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを3回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りシートを活用し、知識の定着、新しい発展した学習を育む。	B	B
② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表を年間3回以上取り組み、課題を解決するための考えや工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	B	
③ 【個に応じた学習指導】 実習時の新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B	
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定するなど、学習をより身近なものへと活用する自主的な学習習慣の定着を図る。	B	
現状と分析		
① 正答率は達成していないが小テストの実施による知識の定着によって定期テストでの正答率が昨年度に比べて良くなっている。 ② レポート・発表を通して言語力の育成を進めている。 ③ 主体的な学びと対話的な学びを往還しながら、個に応じた学習指導をおこなっている。 ④ 夏休みに課題を設定し、家庭学習を促した。		
次年度への改善点		
① 小テストの正答率を指標にすると小テストの難易度が下がるだけなので、定期テストを指標に知識の定着を図りながら学習を発展させたい。 ② 各学年の状況に合わせて思考判断表現する力を伸ばす取り組みを続ける。 ③ 後期は実習作業が増加するため、必要に応じて補習を行う。 ④ 課題の内容について、より課題解決的な学びを取り入れ学習意欲を高めたい。		

(2) 教科の重点⑨〔英語〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】 授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	B	B
② 【言語力の育成】 英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行い、パフォーマンステストを実施する。C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	B	
② 【個に応じた学習指導】 習熟度別学習課題を作成し、課題に応じた学習支援を行う。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】 毎時間プリントなどの課題を与え、授業内にその課題への取り組みを確認する。また、取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】 学級内習熟度別授業を実施し、ボトムアップをめざす。	B	
現状と分析		
<p>① 単元テストの他に、単語テストや英文テストを毎時間実施し、「基礎・基本」の定着をはかった。必要に応じて再テストも実施した。</p> <p>② ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、既習事項のアウトプット頻度を増やした。また歌のテストやリーディングテスト、C-NET によるスピーキングテストも実施した。</p> <p>③ 難易度を変えたプリント教材を準備し、基礎・基本の定着のみならず応用力が身につくように努めた。T・T の授業では、理解度が低い生徒について学習支援を行った。</p> <p>④ 家庭学習の習慣化と既習内容の定着や復習のため、目的に応じたプリント課題とデジタル課題の両方を出し、未提出生徒への声掛けも行った。</p> <p>⑤ 習熟度別に分割した授業はほとんど実施できなかった。生徒の英語力を把握するのに時間を要したこと、行事の取組等で授業時間が削られたり時間割変更の多さから実施計画を立てることが難しかったりしたためである。</p>		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数授業の実施を増やし、ボトムアップと中間層の英語力向上を目指す。 ・英語を「楽しく」学べるように、教材研究や C-NET との活動内容に工夫を凝らしていく。 		

(3) 生活指導部

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況		
<p>①【小中一貫教育の推進】 9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。</p> <p>指標：連携行事（中1情報交換、体験学習、部活動体験学習）の実施 教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等）を2回実施 教員相互授業参観を3回実施</p>	B		
<p>②【規範意識の向上】 「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。 身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。 体罰根絶への指導体制の確立、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施</p> <p>指標：登校遅刻ゼロの達成、チャイム着席の定着、正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「生徒議会」の実施（毎月）、 「生活指導研修会」を実施する（4月+随時） 生徒理解を深めるため教育相談を実施する（年3回+随時） 体罰ゼロの教育活動を推進する</p>			B
<p>③【防災教育の推進】 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。各種マニュアルを策定する。</p> <p>指標：火災、震災、津波訓練の実施、地域別の防災訓練、集団下校の実施</p>	B		B
<p>④【不登校傾向生徒への対応】 生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。 日常的に情報の共有、共通理解を行い、生徒の心の変化を早期に把握する。 生徒一人一人の状況に応じた、個別最適な対応。</p> <p>指標：週1回の主任会において不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月1回の職員会議において全教職員と状況把握。 ICT（連絡掲示板、共有フォルダ）を活用した生徒の情報共有と把握。</p>	B		
<p>⑤【健康に関する指導の推進】 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。</p> <p>指標：学級活動、保健体育の授業、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。（全学年3回）(外部指導者を含む)</p>	B		

現状と分析

学校安心安全ルールに基づいて、学校生活、授業規律に関しては今一度、教職員で共有していく。学校外トラブルに置いては、今後も外部機関と連携しながら注意していく必要がある。不登校生や登校後の入室が難しい生徒などへの対応なども引き続き、チャレンジルームや区役所とも連携を取りながら継続していく。また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。

次年度への改善点

学年問わず、日常の中のトラブルに目を向ける必要がある。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識することが必要不可欠である。

(4) 健康整備部

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
 C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況	
<p>① 【健康教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気をつけるよう取り組んでいく。 ・美化委員会の活動を充実させ、生徒の美化意識向上に取り組む。 	B	B
<p>指標：生活習慣アンケートにおける「朝、すっきりと起きることができる」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。 生徒アンケートにおける「熱心に清掃に取り組んでいる」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上に する。</p>		
<p>② 【食育の推進】</p> <p>食に関する知識と健康的な食習慣を身につけるための教育活動をすすめる。</p>	B	
<p>指標：生活習慣アンケート「朝食を食べている」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。食育通信を年に12回発行する。</p>		
現状と分析		
<p>①健康教育の推進 生活習慣アンケート(7月実施)「朝、すっきりと起きることができる」において、肯定的な回答は75.7%、生徒アンケート(7月実施)「熱心に清掃に取り組んでいる」において、肯定的な回答は96.9%と、いずれも目標を上回った。</p> <p>②食育の推進 生活習慣アンケート(7月実施)「朝食を食べている」において、肯定的な回答は86.5%と目標を下回った。食育通信は、現時点で8回発行している。</p> <p>以上のことから、生徒の朝食を喫食する状況が改善するように手立てを考えていきたい。</p>		
次年度への改善点		
<p>学校保健委員会を立ち上げ、地域とも生徒のもつ健康課題を共有し、ともに解決を目指す。</p>		

(5) 道徳委員会

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>①【 道徳教育の推進 】</p> <p>道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。</p> <p>生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。</p> <p>「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取り組む、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p> <p>指標：①道徳授業(年間 35 時間の実践)</p> <p>②教科書を中心とした読み物教材を活用した授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。</p> <p>③校内新転任道徳研修会実施（4月）</p>	<p>B</p>
<p>現状と分析</p>	
<p>① 年間 3 5 時間の実施を目指している。</p> <p>② 全学年教科書を用いた授業を実施し、授業後に感想シートを書かせている。</p> <p>③ 5月に新転任の教員に向けての道徳研修会を行った。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>・授業数の確保に努めたい</p> <p>・授業後の評価入力を確実にを行う</p>	

(6) 進路委員会

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>①【 キャリア教育の推進 】</p> <p>キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。 職業講話（1年）職場体験（2年）高校出前授業体験（3年）</p> <p>指標：年度末の校内調査において、「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。</p>	B
現状と分析	
<p>1年生 6月にはさまざまな職業を知り、自分の好奇心の対象を見つけ「なりたい自分」をイメージするとともに、自分が将来働くにあたって、どういったことに重きをおいて仕事を選びたいかということについてワークシートにまとめた。またそれを皆の前で発表し合うことで互いの意見などについても参考とする場を持つことができた。今後12月の職業講話も活用して様々な職業についての理解と関心を深めていく。</p> <p>2年生 8月にはSPトランプの出前授業で自分の適性や強みを知り、進路への関心を高めるきっかけとした。11月末には職業体験を予定しており、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について理解を深め、自分の進路・将来について考える機会とする。</p> <p>3年生 7月に高校による出前授業を行い、進路への関心を高め、考える機会になった。また、個人校長面談を通して、自分と向き合い、進路を考えるきっかけとなった。夏休みの課題として、オープンスクール体験記の作成、9月には興國高校による面接講座を行い入試に向けての心構えを示していただいた。</p>	
次年度への改善点	
<p>◇「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の数の割合は72.7%であったので、後期以降もこの数字を維持できるようキャリア教育を推進していく。</p> <p>◇引き続き、外部講師による講話や体験などを有効に活用していく。</p> <p>◇職業講話の講師などの外部講師については、どの学年でも依頼しやすいような大和川中学校独自の人材バンク、人材の蓄積が必要であるとともに、子どもたちの可能性が広がる講話先を考えていくことが重要である。</p> <p>◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを自分の将来のデザインに活かしていけるよう、引き続き活用を図っていく。</p>	

(7) 特別支援教育の重点

目 標：	社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携もより強化し、「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、安心できる学校をつくる。
------	---

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	B
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 本人・保護者の考えや意向を充分にくみ入れた「個別の指導計画」を作成する。また、中間評価・最終評価を行う。「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす。	B
⑤ 【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間1回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月1回情報交換を行う。	B

結果と分析

① 生徒個々の能力に応じた支援・教育で、学校生活における基本的な生活習慣態度が養われ、教室に入れない生徒も、少しずつ登校し、定期テストや行事に参加できるようになってきた。
② 泊を伴う校外活動や体育大会や文化発表会などの学校行事を経験することで、通常学級の生徒とも関わる機会があり、仲間と協力して自分らしさを発揮することができ、自立へ向けて成長できた。
③ 「個別指導の記録」を策定し全職員に公開し、特別支援学級からの情報発信を行うことができなかった。
④ 講師の先生を招き、研修をすることができなかった。

次年度への改善点

① 時間割を工夫し、個別に対応できる時間を多く作り、基礎学力の定着を図っていききたい。
② 通常学級担任・保護者や関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対しては、一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していききたい。
③ 校外活動では、電車の利用や切符の買い方、新しい環境の中での友達との関わりなど、自立に向けて社会参加を積極的に行っていきたい。また、作業学習や園芸では、何をやるか工程が分かり、自分でできること増やす経験を多く作っていきたい。
④ 校務支援パソコンを活用し、個別の支援・指導情報を閲覧することで全職員が共通理解を行う。
⑤ 職員会議で抽出生徒の情報をもう少し共有できるようにする。

(9) ICT 委員会

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【ICT 活用の推進】 新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。 ICT 活用の推進を行う。	B	B
指標：ICT 研修を 3 回以上行い、必要に応じて研修を実施する。 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末や ICT 機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 85%以上にする。(R6：81.4%)		
②【機器管理】 ICT 機器や、生徒用端末の確認、整理をする。	B	
指標：生徒用の端末調査アンケートを年 2 回行い、並行して故障の有無を確認する。		
③【ホームページ】 開かれた学校づくり及び地域コミュニティとして学校の様子を発信していく。	B	
指標：毎日 1 回以上更新を行う。		
現状と分析		
① 年度当初に研修を行った。また AI 活用に向けた研修も行い、ICT 活用の推進を続けていく。アンケートの「授業で ICT 機器を使う機会がありますか」という項目の肯定的な意見は 79.6%だった。 ② 生徒用の端末調査を 3 回行い、都度更新している。後期では端末の入れ替えもあるため、管理体制を見直す。		
次年度への改善点		
引き続き ICT 活用の推進を続けていく。また生徒用端末の調査も引き続き続けていき、管理しやすいような体制を考えていきたい。併せて、予備機の管理方法も検討する。		